

## 第8話「確認しながらのチャレンジ」

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 課題     | 自分が話したことが相手にうまく伝わっていないかもしれない |
| ストラテジー | 相手に確認しながら話す                  |
| 効果     | 自分が話したことを相手が理解できたのかを知ることができる |

### <課題>

自分が話したことが相手にうまく伝わっていないかもしれない



スアンは 葵 にアニメのどんなところが好きか聞かれて、アニメに対する思いをたくさん話しました。しかし、葵 の反応を見ると、スアンの 話はちゃんと伝わっていないようです。

### <ストラテジー使用場面>

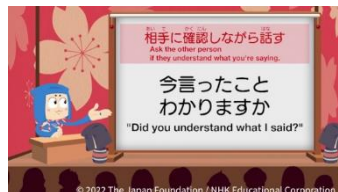
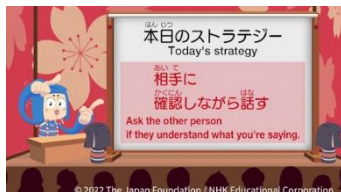


スアン：アニメに出てくる人が、がんばっているから、私もがんばろうと思うし、やったことがないことが、できるかもしれないと思うんです。  
葵ちゃん、今言ったことわかりますか。

葵：つまり、キャラクターを見てはげまされて、自分もチャレンジしてみようって思えるから、好きってこと？

### <スアンが使ったストラテジー>

相手に確認しながら話す



ちゃんと伝わっていないと感じたスアンは、「今言ったことわかりますか。」と伝えたかどうか 葵 に確認しました。最初に確認したとき、葵 が「よくわからなかった。」と言ったので、スアンは ことばを変えてもう一度チャレンジしました。そして、もう一度 葵 に伝わったかどうか確認すると、今度はちゃんと 葵 に伝わっていたことがわかりました。

### <どんなストラテジー？>

一生懸命日本語で話しても、相手にちゃんと伝わったかどうか不安なときがあると思います。そんなとき、今回のストラテジーを使って、相手に伝わったかどうかを確認するといいでしょう。もし、相手に伝わっていることがわかれば不安がなくなります。もし伝わっていなかったとしても、他の言い方をしたり、説明を増やしたりすれば相手に伝わるかもしれません。

スアンのように、相手がわかったかどうか確認をすると、葵の「●●ってこと？」のように、話し手が言いたかったことをまとめてくれることがあります。そこから相手が自分の話をどのように理解したのかを知ることができます。こうやって、お互いの理解のしかたに問題がないかを確認できるので、このストラテジーは話し手と聞き手がお互いを理解するのに役立ちます。

### <どうやって使う？>

自分の話を相手は理解していないかもしれないと思ったときに、このストラテジーを使ってみましょう。例えば、スアンは、アニメが好きな理由を一生懸命説明したとき、葵が「ふーん、そっか…」と言うだけだったので、葵はよく理解していないかもしれないと不安になりました。

では、どんな話をするとすくなく伝わったかどうか不安になるでしょうか。「おはようございます。」「いい天気ですね。」と話しているときにはあまり不安にならないと思います。スアンは、アニメが好きな理由をがんばって説明しようとするのですが、ちょうどいいことばが見つからないせいで長く話したり、同じことばを何回も使ったりして、話がわかりにくくなって葵に伝わらなかったかもしれないと不安に思っていました。このように、不安になりやすいのは、長く話すとき、うまくことばが出てこないとき、難しい話題について話すときが多いのではないのでしょうか。

### <もう一歩> 「何かよくなかったですか。( #06)」との違い

第6話では自分の話した日本語に問題があったかどうか相手に質問するストラテジーを紹介しました。第6話のストラテジーと今回の第8話のストラテジーは、どちらも自分が話したことについて相手に質問するという点で似ています。では、この2つのストラテジーの違いは何でしょうか。

第6話の「何かよくなかったですか。」は、自分が話した日本語の文法やことばに間違いがあるかどうかを質問していますが、第8話の「今言ったことわかりますか。」は、ことばや文法に間違いがあるかどうかではなく、自分が話したことを相手が理解しているかどうかを質問しています。このように、「相手に質問する」という行為は同じですが、質問する目的が異なります。相手に質問をして、自分の話したことについてフィードバックをもらうことは、自分の日本語をふりかえることに繋がり、とても大切なことです。不安に思うことがあったら、積極的に相手に質問をしてみましょう。